

働き方や地域の暮らし、アジアの連帯を学び合う

# 第103回ユニオン学校



開催～

みんなで作るユニオン学校、どなたでも参加できます。運営に力を貸してください。

## 「トリチウム汚染水海洋放出は何が問題か」

お話

# 河田昌東さん

(分子生物学者、チェルノブイリ救援・中部理事)

日時：2024年1月18日（木）18時30分～

場所：市民活動推進センター集会室

(名古屋市中区栄三丁目18番1号)

ナディアパーク デザインセンタービル6階 ※地図裏面

主催：ユニオンと連帯する市民の会

連絡先：080-3543-9205 (松本) 090-9936-8202 (木村)

会場カンパ  
500円ほど



事故から12年たち貯蔵中の汚染水は130万トン、1061基のタンクはすでに満杯で設置場所がなくなる、というのが海洋放出の根拠である。こうなる事は当初から分かっていた。何故ならメルトダウンした原子炉には今も地下水が流れ込み、壊れた屋根からは雨水も入っている。このままいけば際限なくタンクは増える。だが海洋放出の真の原因は別にある。貯蔵タンクの維持費である。膨大な放射能を含むタンクの維持費は現在、年間1000～1500億円という（日本経済研究所）。



こうした状況を見越し、国際廃炉研究機構の汚染水技術調査チームは2013年に汚染水処理について国際的な技術提案を募集した。世界中から182件の処理技術に関する案件の応募があった。一中略一即ち海洋放出が最も安上がりで、タンク保管よりはるかに安い。実際には汚染水を500倍に薄めて40年間放出を続けなければならないので45億円では到底済まない。一中略一トリチウム水は通常の水と化学的性質は同じなのでALPSのような施設では処理できないが、物理的性質（質量、沸点、融点など）の違いを利用すれば処理（濃縮）可能である。実例がある。（ウクライナに思いをよせて～「ポレーシェ」no196）